

2024年11月1日

各位

ENEOS株式会社

「公益信託ENEOS水素基金」2024年度 助成対象者の決定について
～水素エネルギーによるサステナブルな社会の実現に向けて～

当社（社長：山口 敦治）は、当社が設立した「公益信託ENEOS水素基金（運営委員長：北川 進 京都大学 理事（研究推進担当）・副学長、特別教授、受託者：三井住友信託銀行、以下「本基金）」の2024年度助成対象者を次の6名に決定したことをお知らせいたします。

(敬称略)

小畑 圭亮 (おばた けいすけ)	東京大学 大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 講師
草田 康平 (くさだ こうへい)	京都大学 白眉センター 特定准教授
李 秦宜 (り ちんい)	九州大学 大学院 工学研究院 准教授
小松 一生 (こまつ かずき)	東京大学 理学系研究科 附属地殻化学実験施設 准教授
近藤 美欧 (こんどう みおう)	東京工業大学 理学院 化学系 教授
鷹谷 絢 (たかや じゅん)	大阪大学 大学院 基礎工学研究科 物質創成専攻 教授

当社は、脱炭素に向けた水素社会の早期実現に貢献することを目的に、2006年3月に本基金を創設しました。本基金は、水素供給に関する研究助成に特化した公益信託としては我が国初のものであり、水素供給に関する「独創的かつ先導的な基礎研究」に対し、年間総額5千万円（1件あたりの上限1千万円）の研究助成金を今後約11年間にわたり安定的に交付することが可能な規模を有しています。

本年度は、43件の応募の中から、本基金の運営委員会による厳正な審査を経て、上記助成対象者を決定しました。なお、研究助成金贈呈式は11月15日（金）に日本工業倶楽部（東京都千代田区）において開催いたします。

当社は、ENEOSグループの長期ビジョンにおいて「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」との両立への挑戦を掲げており、その達成に繋がる本基金を通じて、水素社会の実現に貢献してまいります。

<添付資料>

- 2024年度 助成対象者および研究テーマ
- 「公益信託ENEOS水素基金」の概要

以上

2024年度 助成対象者および研究テーマ

第1分野<水素製造技術>

おぼた けいすけ
小畑 圭亮 (東京大学 大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 講師)

“酸素生成電極触媒と電解液界面に形成するアモルファス薄膜層の機能解明“

くさだ こうへい
草田 康平 (京都大学 白眉センター 特定准教授)

“多元素ナノ物質を基軸とした水電解触媒の開発“

り ちんい
李 秦宜 (九州大学 大学院 工学研究院 准教授)

“水電解触媒層の1ナノポアにおける気-固-液の三相反応のダイナミクスの解明“

第2分野<水素貯蔵・輸送に関する技術>

こまつ かずき
小松 一生 (東京大学 理学系研究科 附属地殻化学実験施設 准教授)

“立方晶氷への水素の取り込み状態の観察“

第3分野<CO₂固定化・削減技術>

こんどう みおう
近藤 美欧 (東京工業大学 理学院 化学系 教授)

“高度エネルギー生産に資する二酸化炭素を基質とした連動反応系の創出“

たかや じゅん
鷹谷 絢 (大阪大学 大学院 基礎工学研究科 物質創成専攻 教授)

“光エネルギーを利用した二酸化炭素の還元的カップリングによる多価カルボン酸合成“

以 上

「公益信託 ENEOS 水素基金」の概要

信託目的	地球環境と調和したエネルギーである水素エネルギーの供給に関する基礎研究への助成を行い、もって水素社会実現に貢献することを目的とする
信託財産	約6億円（2024年9月末現在）
年間助成金額	総額5千万円以内とする（1件あたりの上限は1千万円とする）
助成する研究	水素エネルギーの製造・輸送・貯蔵およびCO ₂ 固定化に関連する技術分野で、独創的かつ先導的な基礎研究を対象とする
助成対象者	大学や公的研究機関等、営利を目的としない国内研究機関に所属し、「助成する研究」に合致する研究を行う者
募集・選考方法	公募とし、当公益信託の運営委員会にて審査する
委託者	ENEOS株式会社
受託者	三井住友信託銀行
主務官庁	経済産業省

<公益信託について>

公益信託とは、委託者が、財産を一定の公益目的のために信託銀行（受託者）に拠出し、設定した公益信託（公益信託契約）に従って、信託銀行がその財産を管理・運用し、公益のために役立つ制度であり、奨学金の支給、自然科学・人文科学研究への助成、自然環境保護活動への助成、国際協力・国際交流促進など、様々な金銭給付型の公益事業に活用されている。

なお、公益信託の設定にあたっては、主務官庁の許可が必要となる。

